

「BRT車両ターミナル」の誘致を



石内 國雄



副町長

車両ターミナルの 情報得て考える

質問 群馬県が推進するBRT（バス高速輸送システム）の導入に伴い、新たな交通手段の確保による利便性の向上が期待される。

町の発展には国・県の施設誘致も大きく効果があると考えられるため、群馬県の事業であるBRTに玉村町も積極的に参加すべきと考える。

答弁 東毛広域幹線道路（国道354号）沿いの道路用地を利用して、BRT車両ターミナルの誘致を図る考えはあるか。

答弁 町長 当該地は市街化調整区域であるが、BRT車両ターミナルであれば、公益施設としての建設が可能と考えられる。

具体化にはいろいろな検討が必要であり、県が示す事業化計画を見て判断していきたい。

質問 思い立ったが吉日、まず手を挙げて行動を。

答弁 副町長 県から車両ターミナル・車両基地について

ての情報を得たいと考えている。

滝川周辺の環境整備を

質問 住みよいまち・住みたいまちづくりには環境の整備が欠かせない。玉村町の住宅街の中を流れる滝川は、多くの住民の目に触れている。

一部は遊歩道として整備されているが、雑草の処理や木々の維持管理について町としてどのように取り組んでいるか。いつも整備されている滝川が



滝川周辺の環境

あることで、玉村町の評価は上がると考えるが。

答弁 町長 滝川は、群馬県が河川管理者で、伊勢崎土木事務所が管理を行っている。滝川緑道部分は協定を結んだ玉村町が管理を行っている。

答弁 副町長 利根川で行っている自治会の草刈りと同じようなことができるか、土木事務所と相談をしたい。

保険証と高齢受給者証のサイズ統一化を

質問 70歳以上の国保加入者に交付される高齢受給者証は、いまだ以前の大きさのままとなっている。携帯の利便性を考えれば、保険証と同じサイズに変更すべきでは。

答弁 町長 令和3年度の保険証更新時に、保険証と高齢受給者証を一体化した証を発行する。

学校内放課後児童クラブの推進を



宇津木 治宣



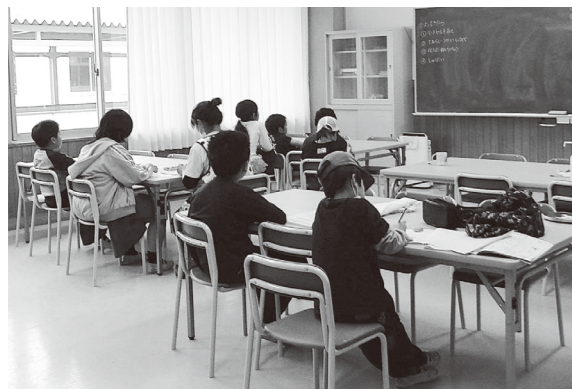
町長

今後も各小学校と連携し 推進する

質問 玉村小の余裕教室を活用した放課後児童クラブが整備され大好評だ。ほかの小学校でも余裕教室を活用した放課後児童クラブの推進を。

答弁 町長 玉村小学校内の放課後児童クラブは、利用する児童にとって校庭や体育館などの広い学校施設を使用でき、安全で利用しやすく快適な児童クラブになっている。

町は今年、「玉村町放課後児童クラブ余裕教室等活用基本方針」を策定し、芝根小で来年度から



安全で利用しやすい児童クラブ

の開設を目指している。また、余裕教室のある南小についても協議を進めていく考えである。

質問 余裕教室がない場合の対応は。

答弁 町長 文化センター周辺区画整理事業により、児童数の増加が見込まれる中央小や余裕教室のない上陽小は、当面、児童館などで受け入れる。今後、待機児童が発生するような場合は、小学校内に独立した専用施設を整備し、児童にとって安全で利用しやすい放課後児童クラブの運営に取り組む。

民間と協力し、災害時の緊急避難場所の確保を

質問 齊田区は、地元建設会社と災害時の避難所使用の協力を結んだ。民間施設などの協力を得て緊急避難場所の確保を進めてはどうか。

答弁 町長 町は、「災害時指定緊急避難場所」(※1)と「指定避難所」(※2)を28カ

所設置している。これとは別に、一時的な災害時の緊急避難場所を民間の協力を得て、確保することは、地域住民の「逃げ遅れゼロ」のために大変有効なことである。

しかし、民間施設を災害時に利用するには、夜間、休日の対応や管理運営などの課題もあり、一律の基準での指定は、現時点では難しいと考えている。

このため、平日、昼間などに受け入れられる民間施設の調査・研究を行っていきたい。

こんな質問もしています

・リサイクルを推進しごみの減量化を
・小規模企業振興条例の策定で地域経済の振興を

※1 災害時指定緊急避難場所とは、町が指定する一時的な避難場所。

※2 指定避難所とは、災害により避難した住民や自宅に戻れない住民が、災害の危険性がなくなるまでの期間滞在するための施設。